

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2772600959
法人名	けいはん医療生活協同組合
事業所名	グループホーム みどり
訪問調査日	平成 20 年 12 月 16 日
評価確定日	平成 21 年 1 月 13 日
評価機関名	NPO法人 ナルク福祉調査センター

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 2008年12月19日

【評価実施概要】

事業所番号	2772600959
法人名	けいはん医療生活協同組合
事業所名	グループホームみどり
所在地	大阪府門真市城垣町2番33号 (電話) 072-884-6367

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町二丁目1番8号親和ビル402号		
訪問調査日	平成20年12月16日	評価確定日	平成21年1月13日

【情報提供票より】(20年11月20日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 6 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	13 人	常勤	4人, 非常勤 9人, 常勤換算 10.7人

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	4 階建ての 階 ~ 4 階部分		

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	24,000 円	
敷金	有() 円 ○無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	300 円	昼食	600 円
	夕食	600 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(11月20日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名	
要介護1		名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名		要介護4	3 名		
要介護5		名	要支援2		名	
年齢	平均	88 歳	最低	85 歳	最高	93 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	けいはん医療生協みどり診療所・松下歯科
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営母体の医療生活協同組合がかかげる「ずっと元気にこの街で」のスローガンのもと、併設の診療所と小規模多機能ホームがうまく連携され、家庭的な雰囲気でも分らしい生き方を大切にした運営が実行されている。管理者と常勤のケアマネージャーおよび職員は認知症の介護について度重なる議論をし、優秀な新人の入社もプラスされ、最近では職員の異動がほとんど無く、ISO9001の導入により科学的に事実に基づく意思決定がされ、計画、実行、チェックの実践がよりよいサービスの向上につながっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	①地域との付き合い、②市町村との連携、③災害対策の3点は、①常にに開かれた地道な地域住民との関わりに努力され、②地域包括センターとの活発な連携から市との会話に、③災害対策も消防とのよりよい助言と地域住民への接触に、と改善がはかられている。④法人外の同業者との交流は、より積極的な行動への努力が今後とも望まれる。
①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者が記入した自己評価は職員に理解されているが、次回全職員に事前から提示し時間をかけ自己評価に取り込み、職員の積極的な参加と気づきを期待したい。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2ヶ月に1回定期的に開催され、一連の評価を公開し地域包括センターとは双方の意見が交わされその貴重な意見が議事録に記入され改善への取り組みが実行されている。老人会、自治会の参加は努力するも了解されていないが、今後いろいろな地域住民や地域機関への呼びかけが検討されている。家族は毎回積極的に参加している。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 年1回の家族会が開催され、また家族のほとんどが常にホームに来ており面会時には色々な意見を素直に聴く努力を実行している。組合員組織からの家族の意見も反映できるシステムが確立されているとともに事業所、市の相談・苦情窓口を開示している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 散髪やコンビニのお店利用が多く、また日常の散歩や買い物で必ず挨拶をしている。秋祭りへの参加や初詣などの季節ごとの外出も行ない、敬老の集いには近くの保育園児が参加している。2ヶ月に1回、虹ニュースを地域住民に配布し地域との連携が図られている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営母体の医療生協の理念「ずっと元気にこの街で」を共有しているが、日々の実践に地域密着の意義を具体的に表した、グループホームみどり独自の理念は見当たらない。	○	さらなる理念の充実をはかるためには、標語として掲げる「いいあんばい」を、地域との関わりで実践にどう結びつけるか、事業所全体の話し合いでホーム独自の理念が創りあげられることを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の実践のふり返りの原点として、理念を共有している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域組合員が運営する「街かどデイハウス」との交流の機会を活かしながら、地域との結びつきを深める努力を重ねている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年度の評価を見ての研修申し込み、実施後のレポートの提出を受け、評価の意義について職員の意識向上が図られた。今回については、管理者の兼務による多忙もあり、職員への働きかけ、意識付けが行われていないままに記入されている。	○	必要項目について、職員一人ひとりが自己評価を行うことが、介護への気概と実践力の向上につながり、「いいあんばい」のくらしの改善となることに期待する。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催され、議事録の整備も確認するが、地域住民代表の参加が定着していない。地域的事情に配慮しつつ、社会福祉協議会の助成を請い、幅広い地域住民有志の参加を図るべく努力を続けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	近隣3市による広域連合という事情もあり、市担当者との深い交流はないが、研修会や地域包括センターを通じての交流は図られている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月10日に発行するホームだよりで、利用者や職員の紹介、行事案内や実施の様子など、暮らしぶりを報告している。必要に応じた個々の連絡は、家族訪問時や電話などで行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	近在の家族が多く、その訪問の機会や年1回の家族会を大切に活かしている。地域組合員による「班会議」なるものでの意見なども参考にしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	この一年間には、法人内異動の一人を除いては離職者もなく、落ち着いた支援体制が維持できている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修、規定の外部研修は実施されている。また、個人が意欲的に自己負担で外部研修を履修し、その伝達学習や実践指導も行われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	けいはん医療生協の範囲での各事業所との交流はあるが、その他についてはなされていない。	○	様々な理念、形態、実績を持つ他の同業者との交流によって得られるものが、当ホームの目指すものの充実・発展に寄与するであろうことを認識し、包括支援センターの助力を得るなどして、交流の機会と場を広げる努力を望む。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	この1年は新規利用者はいない。が、比較的緊急性の高い利用者が多いので、入居してからの「なじみ」をつくり、深めるための工夫、努力を重ねるとしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員の定着による「なじみ」の深さから、「いいあんばい」を相互に認め合った日々を送っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	なじみの深さに慣れることなく、重度化する利用者の日常の細事に留意している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	状況判断を誤ることなく、最適な介護計画の作成に努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の重度化に伴い、日常の申し送り事項に留意し、定期的モニタリングの下に介護計画の見直しを行っている。ISO9001による科学的考察が、介護現場にも活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院のための移送と介助、その他の外出支援のほか、介護保険に関する全般的な相談にも応じている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療生協による診療所を階下に配し、院長をかかりつけ医とする適宜・適切な受診体制は、利用者と家族の安心となっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療処置を必要とする搬送、延命処置については家族の同意書を得ているが、ホームでの対応については話し合いはなされておらず、方針も具体化されていない。	○	疾病を持つ利用者の重度化が進む現状では、早晚、終末期対応は求められるであろう。医療関係者との連携の下、「出来ること、出来ないこと」を明確にし、感情の揺れ動く家族に対して基本的条件を文書化したものでの話し合いが進められることを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	スタッフ会議などで研修することと、実態との乖離をお互いに注意するなど、常に気を配っている。記録の管理にも十分留意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々人の、やりたいこと、できること、できないことを見極めながら、無理なくいいあんなばいにすごせるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食とおやつ、週2日の昼・夕食は利用者も交えて調理する。その他はチルド状態の完成品を購入している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に2日に1回、午前中の中の入浴だが、夜間入浴にも対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	重度化が進み、行動的な楽しみプランは減っているが、夫々が穏やかに、いいあんばいに楽しむよう工夫している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	心身の状況に合わせ、散歩・買い物・理美容室への外出支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	脚力の落ちた利用者が増え、階段(4階)の危険性も考えれば、フローア入り口の施錠はやむを得ないと理解する。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	利用者の重度化、車椅子使用増に備えた避難訓練について、消防署の助言・協力を得るべく努力中である。街デイやボランティアなどの地域組合員の協力体制も図られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量はチェック表により管理され、必要に応じてエンシュアの対応もなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	街中に在る鉄筋コンクリート建ての4階という条件の割には、共同空間の配置もよく、食堂などの装飾も過度なものでなく、全体に落ち着いた明るい雰囲気である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基準値より広く感じられる居室に、各人の持ち込み家具が具合よく配置され、「いいあんばい」のくらしが窺える。		